

## 現代の日本人のインテリアイメージにおける「寛ぎ」に関する研究

日大生産工(院) ○市原実果  
日大生産工 山岸輝樹

Table 1 写真ごとの因子負荷量

写真番号	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5
	伝統性	寛ぎ性	開放性	明るさ性	暖感性
1	-0.67046	1.25514	0.771272	0.360252	-0.23743
10	-1.34123	1.182238	-0.28756	-0.77127	1.457282
27	-0.17334	1.08704	0.152972	-2.19217	0.229183
8	0.48457	0.950654	-2.16999	-0.7388	1.47201
22	-0.07375	0.943589	0.764334	-0.11994	0.11041
23	0.050629	0.942391	1.512771	0.648698	-0.04186
26	-0.9195	0.758307	-0.08835	1.27983	-0.88857
25	-1.4574	0.730076	0.242232	2.162188	-0.38011
9	-0.39438	0.729566	0.350342	-1.53034	-0.60502
24	-0.31119	0.68094	-0.51489	-1.43302	-1.28365
30	0.757832	0.66924	0.160507	0.136197	-0.72784
5	0.863157	0.633505	-1.43668	0.429977	-0.28502
29	-0.21655	0.581515	-0.0807	0.655456	0.019404
28	-0.0587	0.564376	0.339439	-0.25721	-0.53845
6	1.024139	0.459032	0.675102	1.056839	0.701141
21	-0.77014	0.390761	0.472778	1.231259	0.960345
3	1.160861	0.217977	-0.86807	1.276364	1.623968
2	1.84283	-0.03482	0.436419	0.333741	-0.1619
19	0.821095	-0.1971	-1.14135	0.611369	-0.9736
12	-0.46705	-0.49168	-2.29407	-0.07917	-2.52152
18	0.462672	-0.64374	0.83098	-0.4635	0.457677
4	0.63044	-0.66036	1.570583	-0.42318	-0.42847
7	1.093449	-0.67054	0.1677	-0.96059	0.639041
11	-1.77288	-0.89664	1.155763	-1.35349	0.575574
17	0.43482	-1.18932	-0.21429	-0.75919	-0.51064
16	0.696271	-1.34127	-0.32153	-0.62202	0.466076
15	0.620407	-1.36179	-0.47916	0.705582	1.235493
14	0.627973	-1.5554	0.727043	0.241474	-0.34252
20	-0.19979	-1.66737	0.74035	0.14556	-0.92721
13	-2.76288	-2.06634	-1.24407	0.429108	0.90421



Fig.1 インテリア写真 (寛ぎ性順)

## 1. はじめに

作者らにおける現代の日本のインテリアイメージ、特に和室に関するインテリアイメージの構造を説明する研究で、「伝統性」に続く2番目に大きい因子分析の因子として「寛ぎ感」に関する因子があることが明らかになっている。また、さらにはその寛ぎ感はそのインテリアを好きか嫌いになるかという「選好性」と強く相関することが明らかにされている。この研究ではとくに現代の和室のイメージを明らかにすることを目的としていたため、「和室度」との相関が低い「寛ぎ感」に関する分析は十分に行われたとは言えない。

本研究はインテリア写真を用いたアンケート調査にもとづく上記研究の分析結果から特にインテリアイメージの中で「寛ぎ」に関する評価について明らかにすることを目的としている。

## 2. 目的

## SD法によるアンケート調査

本研究は、インテリア写真を用いたアンケート調査を通して、インテリアイメージの中で「寛ぎ」に関する評価構造を明らかにすることを目的とする。

## 3. 調査・分析の方法

## 3-1 調査対象

調査対象は大学生の群21名と一般の群34名とする。

## 3-2 SD法の形容詞対

SD法ではイメージの評価語として形容詞対が用いられる。本研究ではインテリアの特徴を表す評価語を取り入れる。先行研究で用いられた形容詞対を参照し、加えて歴史的特徴と外来の文化の特徴を評価する「伝統」「欧米

等を加えた14語を評価語とし、それとは別に和室度と選好性の項目も加えた。

## 3-2写真の選定

写真は pinterest から 30 セット抽出した。

## 3-3アンケート調査

アンケート調査は抽出した写真30枚を用いて行った。

## 4-2因子数の決定

因子数は固有値の減少の度合いが固有値5で小さくなったため、因子数5で因子分析を行った。

## 4-3因子の解釈と命名

因子分析の結果を表1に示す。各因子数について、変数の特徴を踏まえて命名した。

## 5-1インテリア写真と寛ぎ性の関係

表1は調査に用いた30枚の写真における因子ごとの因子負荷量の数値である。寛ぎ感について値の大きい順になるよう並べ替えた。この表を基に、2因子寛ぎ感の値の大きいものから順に写真を並べたものが図1である。

この図を見ると、上位には洋室と畳コーナーの写っている和モダンのインテリアが入り混じって並び、下位には柱・梁をもつ和室や古民家がならんでいた。このことから、寛ぎ感とは和室より洋室や、洋風のインテリアにおいて

Study of relax of interior on modern Japanese

Mika Ichihara, Teruki Yamagishi

高い値を示していることが分かった。また、全体的に見て上位のインテリアは明るく、下位のインテリアは暗いことから、明るさと寛ぎに関係性があることも読み取れる。

### 5-2 寛ぎ感と選好性の関係

図2、図3は学生群、一般群の寛ぎ性と選好性の関係を表している。学生群では寛ぎ性と共に選好性も緩やかに向上して弱い相関がある。写真との関係を踏まえると学生群では純粋な和室はそうでないインテリアと比べると寛ぎ感が少なく比較的好まれないことが分かる。また、一般群では寛ぎ性と選好性に相関は見られなかった。

### 5-3 クラスタ分析

図4、5は5因子、因子得点に基づくクラスタ分析の結果である。図を見ると学生群では寛ぎ感の高いインテリアがfに最も多く、次にcが高い。一方、図5を見ると、寛ぎ感の高いインテリアは各クラスターに分散して見られる。よって、学生群は洋室を中心に寛ぎ感が高いと判断したが、一般群はより広い範囲のインテリアに対して寛ぎを感じるようになった。また、どちらの群も、純粋な和室のあるグループは寛ぎ感が低かった。

### 6.まとめ

寛ぎ感と選好性の相関は緩やかであった。しかし、寛ぎが低い部分では嫌いだと判断されるものとして純粋な和室があり、寛ぎの高いものは伝統的な日本のインテリアではなく洋室の写真が多いことが明らかになった。

### 参考文献

- 1) 山岸輝樹、鈴木雅之、服部 岑生、写真比較調査によるインテリア・イメージの評価構造と和室に関する研究、日本建築学会計画系文集 (2020)
- 2) 西山卯三「すまい考現学現代日本住宅史」

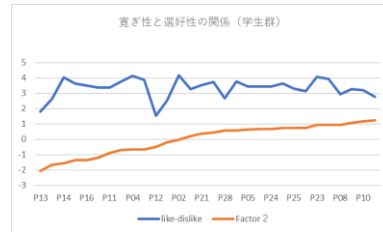


Fig.2 寛ぎ性と選好性の関係 (学生群)

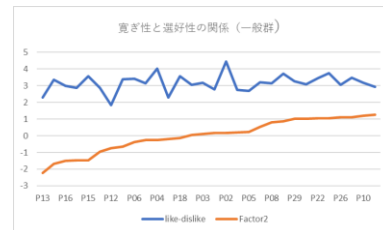


Fig.3 寛ぎ性と選好性の関係 (一般群)

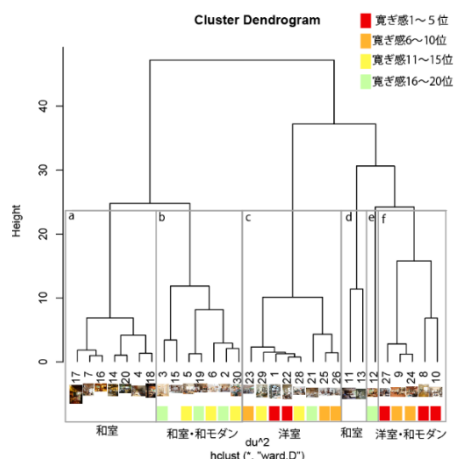


Fig.4 クラスタ分析 (学生群)

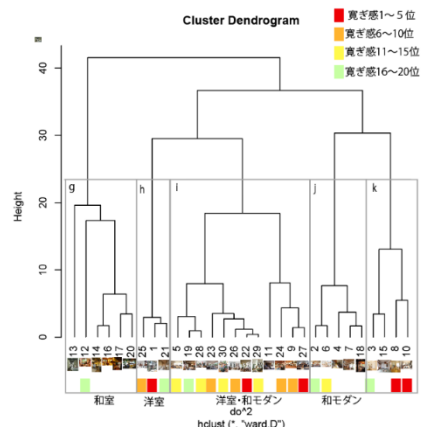


Fig.5 クラスタ分析 (一般群)